

令和6年度 学校関係者評価報告書

令和7年2月21日

学校関係者評価委員 7名

学校法人双葉学園 ふたば認定こども園横川目こども園

1. 本園の教育目標

①自分で考え行動し、最後までやり抜く子 ②優しく思いやりのある子 ③伸び伸びと自分を表現できる子

2. 本年度重点的に取り組んだ目標・計画

- ・安全、及び保健衛生への取り組みを見直し、実践や啓蒙に努める
- ・職員間の日頃の情報共有を密にし、相互に折り合いをつけながら連携していく
- ・子育て支援事業が、保護者の子育てへの充実感に繋がるよう配慮していく

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

| | 評価項目 | 評価 | 取り組み状況 |
|---|-------------------|----|--|
| 1 | 安全・保健衛生の取り組みの見える化 | B | 感染症お知らせボードやおたよりなどで園の取り組みを知らせたり、注意喚起などを行ったりし、周知できるようになってきた。しかし、感染症予防と保育の義務の観点から、園と保護者の意識の摺り合わせが課題である。 |
| 2 | 子どもの遊びの充実 | A | 異年齢での関わりの充実はもちろん、子ども達自身が遊びを考え、広げていく姿から、主体性を重視した保育の実践がなされ、それが保護者へも周知されている。 |
| 3 | 職員間の連携 | B | 相互に連携することで子ども理解が深まった一方で、環境設定において、園内研での課題を改善しきれない面も見られた。 |
| 4 | 食育の充実 | A | 子ども、保育者、調理者の願いが実現される取り組みが十分にできた。今後は残食への対策方法を探っていきたい。 |
| 5 | 子育て支援の充実 | A | 地域の実情に合わせて子育て支援事業を展開することで、積極的に親子で参加する姿や、園の取組を理解してくださる保護者が増え、信頼関係が構築されてきた。また、新たな1号子どもの入園にもつながった。 |

評価（A・・・成果があった B・・・概ね成果があった C・・・成果があったが不十分 D・・・成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

| 評価 | 理 由 |
|----|--|
| A | 子どもの主体性を重視した遊びの展開ということをどの教職員も意識しており、試行錯誤しながら、また子ども理解に努めながら関わってきたことが、保護者へも伝わっており、子どもも保護者も充実した園生活へとつながっているとアンケートから見て取ることができた。安全・保健衛生はまだ改善の余地はあるものの、少しずつ改善してこうとする組織風土が醸成されており、評価に値すると判断された。 |

評価（A・・・成果があった B・・・概ね成果があった C・・・成果があったが不十分 D・・・成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

| | 課 題 | 具体的な取り組み方法 |
|---|------------------|--|
| 1 | 充実した遊びの継続 | 子ども達の主体性を重視した遊びは今後も継続していきながら、園内研で出た課題を実際の保育に反映していけるよう、教職員間で連携をとりながら進めていく。 |
| 2 | 教職員の業務の精査 | おたよりの ICT 化を図り、教職員の業務時間の適正化を図り、時間をとるべき業務と省くべき業務を精査していく。また、教職員にとって働き続けることのできる職場となるよう、ワークライフバランスを意識しつつも、やりがいももてる職場であることを目指す。 |
| 3 | 保健衛生等における相互理解、発信 | 感染症予防は必須であるものの、解熱後や嘔吐後の対応において、保護者の仕事との兼ね合いを園としてどこまで許容するのか、教職員と家庭と連携をとりながら丁寧な対応に努める。また、園理解促進のための発信に心掛ける。 |

6. 学校関係者評価委員の評価

子どもの遊びの充実度は、保護者からの評価も高く、今後も継続されることを目指してほしい。また、遊びの大切さというものが、保護者にも浸透しており、園と保護者相互に連携しながら子どもを育てていく事に繋がっている。今後も様々な面での発信を心掛けてほしい。また、働き続けられる職場として、変えていくべきこと、変えてはならないことを精査しながらの園運営を望む。